

●京の川の恵みを活かす会フォーラムが開催 10月18日(日)

里山の会から森島副理事長と有田理事が出席しました。午前の部の最終に竹蛇籠製作について活動紹介をパワーポイントで紹介しました。この日は9月26・27日に府立植物園での「いきものフェス」で竹蛇籠製作を行った現物を会場正面に持ち込みましたので、来館者の皆さんがご覧になっていたのも説明が容易だったとのことでした。また玄関前の広場に竹蛇籠を使って中聖牛のモデルを設置させてもらっており説明が分かりやすく掲示されていますので効果を発揮しているようでした。これを設置してから4年が経過していましたが竹蛇籠はまだまだしっかりして原型をとどめていました。現物があり理解が早かったのではと思いました。しかし長さ4mで直径45cmの蛇籠には約1t程度の石(9本で合計10t)がおもしとして載せているので、床丸太は重さに堪えられずに折れが始まっていました。

京都市伏見区淀川沿いの京都大学防災研究所淀川ラボラトリーにわかりやすく野外に設置してありますので散歩の際にでもご覧になってください。

●ヤマトサンショウウオの生息地の危機。

ヤマトサンショウウオの卵のう・成体を発見できた山の中の池(水溜り)の周囲の竹(淡竹)が枯れて50本程度が溜まりの上に倒れてきました。またエノキの巨木(直径50cm長さ10m)も朽ち果てて倒れ込んできました。これらの出来事で水たまり機能が失われています。これまでは水が溜められるように溝を作り落葉を片付け、トイを取り付けるなど考えられる手立てを行ってきました。現在点検道の維持にも手を焼く始末で、とても修復作業にまで取り掛かることが不可能なため、調査観察に行けなくなるのもやむを得ない事になってきました。山に入る通路の50m程度は足場の補強が必要と思われます。事務局のメンバーは大変貴重な水たまりを放棄せざるを得ない判断をするべきではないかとの意見が出されました。貴重な生息池を失うことを、我々の判断だけで良いのだろうかとの心配をしております。

●山城大橋でアユの仔魚の川下り調査が行われます。

木津川(山城大橋)でのアユの仔魚(赤ちゃん)の川下り調査がこれまで御幸橋で実行されてきました。仔魚の流下が80%木津川産という結果になっています。木津川漁協さんがこれに気付き、今年から泉大橋と山城大橋での調査を実行されることになり、山城大橋では11月13日、11月22日、11月27日に行われます。いずれも19:00~22:00に4回採取が計画されています。橋の上から捕獲網を下ろし10分間に入った仔魚を目視調査します。夜分ですので若者の優れた視力が大変貴重です。木津川が優れていると判断されて初めて行われる調査活動ですので、ぜひ積極的にご参加ください。特に京田辺市にお住いの学生諸君のご参加を強くお願いいたします。

集合地を山城大橋の西詰としたり東詰めとなっていて不確定ですが、**西詰**と確定いたしますのでお間違いのないようお願いいたします。

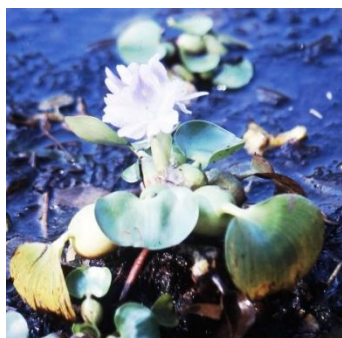
●里山農園 10月17日(土)

この日は久しぶりに9人もの皆さんが集まりました。8月の猛暑、9月の台風と雨に見舞われ土曜日・日曜日は異常な天気です。これだけの皆さんが顔を会わせることはできませんでした。まさに久しぶりのことで草刈



りや草抜きなどの作業をそこそこにして雑談に力が入り、ほんの少し前にご入会された生駒市の
大竹さんは軽トラックに刈払機2台を積んで参加されました。2台の刈払機を持っていると、万
が一持ち込んだ機械が不調であっても取りに帰るという時間を無駄にしなくても良い為、予備を
持っていくことは大変重要な作業準備です。ここまで深く考えて参加されている事に本気心と真
剣さを感じました。ご活躍を期待しています。あまり構えず気楽に継続して頑張ってください。
また先週号で紹介したスイカが20日にはいよいよ茎が枯れ始めてきましたので今日、明日にでも
早く収穫しないと中から腐り始めるのではないかと事務局会議で話題になりました。

十月に咲く木津川の花



ホテアオイ



サンカクイ



ハイメダハギ



サクラタデ



チャ



カラスノゴマ



ゴウシュウアリタソウ



オオバクサフジ

